



## エッジを立てて

学長 渡辺 信一郎

卒業生のみなさん、卒業おめでとうございます。

みなさんは、この卒業を迎えて、きっと様々な感慨と達成感に満たされていることと思います。ただこの達成は、過去四年、あるいは二年間の達成であって、みなさんの将来を保証するものではありません。卒業は、この達成の上に、社会のなかで、あるいは進学先の大学院で新たな蓄積を図っていくための起点であるにすぎません。新たな展開をめざして、みなさんはすでに、何が必要かいろいろ考えていることと思います。

NHKの朝の連続ドラマ「カーネーション」が人気を博しています。その登場人物のモデルになっているコシノジュンコさんが朝日新聞の求人欄で、「仕事力」について興味深い談話を載せていました。コシノさんはこう言っています。

「仕事のベースには、習得しなくてはならない技術や知識がありますね。最初の数年間はそれを必死で学ばなくてはならない。一通りのことが出来るようになり、一人前になれると達成感はありますが、さて次に何をするかです。……やはり自分らしさを探していかなければ、仕事は面白くならない、伸びていかない。自分を見つけていこうとするプロセスでは、……「好き」「嫌い」のフィルターが物を言います。目の前にある、物でも色でも、それこそニュースでも、人の言うことでも、自分の心の中で好きか嫌いかを必ずジャッジする習慣をつけることです。……これを心がけていくと自分の輪郭が見えてきます。……自分という入り口は、本当は同じ時代を生きる人の感覚とつながっている。まだ人が気づいていないその感覚を、あなたが見つけてくるのだと言い換えられるかも知れません。」(朝日新聞2011.11.13付)

私の専門は、中国古代史の研究ですが、自分の研究生活をふりかえてみて、この言葉のなかには思い当たるものが少なからずあります。職業であれ、研究であれ、一定の期間頑張れば、必要な技術や知識を身につけて一人前になれる。達成感も生まれます。問題はその先にあります。社会とつながりながら、社会の気づかない事物を自分で見つけ出してくるところに職業人としての創造性が生まれる。自分を見つけて出すには、自分の判断力を日常的に磨く以外にありません。人と同じ次元に安住しては、独創性は生まれません。

コシノさんは、つづけてこう言っています。「笑われてもいいから、自分の意見を言ってみる。それは多くの人にとって怖いことらしいですね(笑)。……でも、クリエーションは違いを目立たせることから始まります。サービス業でも、製造業でも同じだと思いますが、「こいつは何か違う」と言われる人は、エッジが立っています。周囲の色に全部染まっていたら、いつだってその人の代わりは利く。」

本当の職業人になるには、社会のなかにあって、自らの立ち位置を明確にすることが大事だと思います。周囲を無視したスタンドプレーで目立つ必要はありません。エッジを立てて、際立つ職業人・研究者になることをめざし、つぎの段階に進んでほしいと思います。

## 目次

卒業生に贈ることは(学長) .....	1	平成23年度理事長・学長表彰者紹介 .....	15
法人理事長・理事、部局長から .....	2	博士学位取得者からのメッセージ .....	16
担任・卒業生のことは		西安交換教員からのメッセージ .....	17
文学部・文学研究科 .....	4	公開講座・シンポジウムから .....	18
公共政策学部・公共政策学研究科 .....	7	トピックス(お知らせ) .....	19
生命環境学部・生命環境科学研究科 .....	9	学位(博士)取得者一覧 .....	20
後援会理事長、同窓会長からのメッセージ .....	13	桜楓講座(春の部)参加募集 .....	20
退職教員からのメッセージ .....	14		

## 法人理事長・理事から

### ご卒業おめでとうございます

京都府公立大学法人理事長 荒巻 禎一

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

期待と不安をもって、初めてこの大学の門をくぐられた時を顧みれば、皆さんは、ずいぶん早く時間が過ぎたと思われているのではないのでしょうか。

この大学で過ごした日々は、皆さんにとって、楽しい思い出であるとともに、皆さんが新たなステージに飛び出し、自分の人生を切り開いていくうえで、皆さんを支える貴重な財産でもあると思います。どうか、いつまでも、大切にしてくださいと思います。

皆さんの中には、府立大学が、京都府公立大学法人が運営する大学として新たにスタートした、4年前の春に入学された方もたくさんおられます。法人化の第1期生が、いよいよ卒業していかれることは、私にとっても大変感慨深いものがあります。

京都府公立大学法人としては、この4年間、府立大学の良き学風は守りつつ、更なる発展と飛躍のために、キャンパスの環境整備や他大学との連携等に取り組んできておりますが、来年度からは、いよいよ、教養教育共同化施設が着工の運びとなり、下鴨キャンパスの環境整備が具体化していくこととなります。皆さんが慣れ親しんだ、この下鴨の地は、装いも新たに生まれ変わることでしょう。大学の発展のためには、これまでに卒業された同窓生の方々の励ましとご支援が大きな力になります。皆さんには、母校がどのように変わっていくのが、常に温かい目で見守っていただくとともに、末長くご支援ご協力をいただきますようお願いいたします。

### 卒業 峠を越えて

京都府公立大学法人 理事 築山 崇  
(公共政策学部教授)

「峠道は夢が一步一步と叶えられて現実に近づく道であり、峠はそれが具現され確認される場所ということが出来るであろう。つまり峠はある意味で私達の夢であり窓であるということが出来ると思うのである。」と、『北山の峠』（1978～1980ナカニシヤ書店）の筆者金久昌業氏が語っています。

月並みな表現とは思いますが、みなさんのこれからの人生に待ち受ける様々な景色を思うと、やはり卒業という節目には峠という言葉がふさわしく感じられます。金久氏のことは、北山の峠そのものが呼び起こした感慨ですが、みなさんが大学生生活を振り返ったとき、同様の思いがわいてくるのではないのでしょうか。夢と現実の距離はそれぞれでありながらも、卒業という峠に立ったいま、そこに広がる景色の中に、また新たな夢を見出し、歩みを進めていかれるのだと思います。

今日まで歩みをともにしてきた私は、みなさんを見送り、また麓の村に戻って、みなさんの後に続く仲間と学びの季節を重ねていきたいと思えます。折々に便りを届けていただき、また、時には故郷を訪ねていただきながら、険しい風雨の中をもたくましく生き抜いていかれることを心から願っています。



## 部局長から

### 柔軟に考え、強い力で行動する

教務部長 佐上 郁子

ご卒業おめでとうございます。

日本は、3.11の「東日本大震災」とその後の「福島第一原発事故」で、過去に例を見ないほどの人的、物的損失を被りました。生きることの価値、家族の絆や地域社会とのつながりなど、考えさせられることの多い1年でした。そのために皆さんの進路選択にも影響が出て、大変だったことと思います。でもだからこそ、より深く自分を見つめ、自分にあった進路を選べたかもしれません。

今こそ、若い皆さんの柔軟で独創的なアイデアと果敢に困難に立ち向かう強い力が、よりいっそう必要とされています。それぞれの立場、それぞれの地域で、出来ることを考えおこなうこと、そして持続的な活動が大切であると思います。また、個人が出来ることは限られていますが、協力し支え合うことで生み出される力は何倍にもなります。本学で得た知識と技術そして培った判断力を総合し、直面している難局にたちむかい、明るい21世紀となるよう、皆さんが活躍されることを祈っております。

## 母校を応援してください

学生部長 野口 祐子

卒業生の皆様、おめでとうございます。

人生の新たなスタートですね。これから社会人として生活する人も、研究を継続する人も、初めて経験する環境に入っていくこととなります。そこではこれまでより困難な要求や厳しい評価に直面することがあるかもしれません。そんな時も、どうか目先のことにばかり囚われず、遠くを見やることを忘れないで下さい。本学でじっくり取り組んだ学びの姿勢は必ず社会でも役に立ちます。そして、時には立ち止まって大学時代を振り返って見れば、成長した自分が見えてくるはずですよ。私たちは皆さんの可能性を信じています。

これからの社会は、様々なバックグラウンドを持った人々が共生できるゆとりを生み出していかねばなりません。他者の立場にたって考える姿勢がますます必要となります。皆さんも大学で学んだことを生かして、身近なところから、少しずつ変えていってください。

ひとつ、学生部長としてお願いします。どうか母校を応援して下さい。そして卒業生として社会で地道に活躍されることによって、京都府立大学の名を広めてくださることを期待しています。

## 「想定外と常識」

附属図書館長 牛田 一成

皆さんの大学生生活最後の一年は、東北の大震災と未曾有の原発事故によって長く記憶に残る年になってしまいました。絶対安全であるとされていたものが、実はいろいろの条件を設定した上で「絶対」安全とされていたわけで、「想定外」という用語が飛び交った一年でもありました。「想定」は、物事を決定していく際にいろいろとなされるのですが、それが根拠を持つのかどうかについても厳しく追及された1年でもありました。それぞれの業界的な「常識」というものが、したがって、議論の俎上にあがることになったわけです。

卒業されて皆さんが進んでいかれる社会には、これまでの人生以上に業界的常識で満ちあふれていることでしょう。今日、明日、明後日というショートタームなら、与えられる常識に乗って進んでいくことも可能でしょう。しかし、一日一日の積み重ねが一年二年となり、そして十年二十年という規模に拡大していくと、今日明日を生きるための常識は、いつでも適用可能な根拠を与えるものなのか、よく考える必要があるでしょう。皆さんは、府大で過ごした学生生活のなかで、「常識」に飲み込まれない知性と知恵を獲得されたと信じたい気持ちで一杯です。



## 学んだことを胸に刻んで

事務局長 公庄 正夫

御卒業おめでとうございます。

一昔前と違って変わって、更に進学する方が4分の1強もいらっしゃるの、社会という大海原へ出航するという時代ではないのかもしれませんが、しかし、多くの方々は、やはり昔風に言えば、社会の一員になるわけですので、ある種感無量ではないかと思えます。

皆様は平成20年の法人化後、また学部再編後に入学された方々です。この4年間に本当にいろいろなことがあったと思います。政治では自民党政権から民主党政権に変わりました。しかし、何と言っても今年の3.11です。その前の月の2月22日にニュージーランドで留学生等、約30人の日本人が亡くなりました。大変痛ましいことと思っていたその17日後の東日本大震災です。それはただ単に震災というだけでなく、原発事故を招いてしまいました。この先、数十年にわたって復旧・復興を行っていく必要があるわけで、同じ日本人であり、我々もまた、このことを共有していかなければならないと思います。

さて、京都府立大学は申すまでもなく府立の大学です。行動憲章でも謳っているとおり、地域貢献をその柱の一つとしております。いわば公立大学の宿命でもあるわけですので、皆様方が卒業後も府立大学で学んだことを胸に刻んで、大いに地域貢献・社会貢献されんことを期待してやみません。

## 文学部・文学研究科

### 自信を持って

文学部長・文学研究科長 榎木 謙周

卒業・修了おめでとうございます。

私の経験から始めて恐縮ですが、卒業論文・修士論文の思い出は独特のがあります。卒論提出の日、徹夜をして空がだんだん白んでくる時の不思議な感慨のこと、修論提出前夜に心配して訪ねてきて間違いをチェックしてくれた友人のことなど、とりとめもなく思い出されます。皆さんも、これまでにあまり経験したことのない世界に踏み込んだ感想はいかがですか。卒論・修論に限りませんが、大学で学んだ最も大きなことは、創造的な仕事をするにはどうすればよいか、その方法を鍛錬したことにあると思います。言い換えれば、これから社会に出て、様々な分野で創造力を発揮するための基礎体力を身につけたということです。

今後、学んだ内容とは全く関係がない仕事に就いていても、この基礎体力がものをいう機会がきっとあります。その時は自信を持って立ち向かって下さい。

### 文学部

### 日本・中国文学科の皆さんへ

日本・中国文学科担任 安達 敬子

日本・中国文学科の皆さん、ご卒業おめでとうございます。あなた方は日本・中国文学科の1期生として平成20年4月に入学されました。同時に私も新生日本・中国文学科に所属することになり、1期生の担任として皆さんと共に、国中文学科の伝統を受け継いだ新しい学科と歩んでいくことができ、とても嬉しく誇らしく思っています。

早いもので、4年前の初々しかった新入生も、変化する社会情勢のなかで厳しい現実と直面しながら、健気に勉学に励み立派に学業を全うされて卒業の日を迎えました。閉塞感が覆う世界に出発する明日からの日々に、不安を持つ人もいるかもしれません。ただ、政治や経済の状況がどうであれ、人間の思索や感情から学問・芸術によって掬いあげられた叡智や美は、不易かつ普遍に存在することをあなた方はもう知っているはずで、大学での学びで培われた「知」への愛が、これからの皆さんを勇気づける支えとなり、心豊かな人生の糧となることを祈ってやみません。

### 『感謝』

日本・中国文学科 A.Y

昨日入学したばかりのように思っていたのですが、気付けばもう卒業です。

卒業にあたって私が伝えたいのは、先生方と友人達への感謝です。私の大学生活は好きな文学を好きなように学んだ四年間でした。「好きなように学べる」というのは当たり前のことだと思っていたのですが、先生方が陰で支え、導いてくださったからこそできたことなのだと、今ならわかります。そして、最後の演習の授業で先生が「学生時代の仲間は、社会に出て、お互いに暮らす土地が変わっても、ずっと友達でいられるんです。何十年先のことなんか想像もつかないでしょうけど。大切にしてください。」と話をしてくれました。おっしゃる通り、何十年先のことなど想像もつきません。けれど確かに、これからはずっと友達でいられるであろう大切な仲間に出逢えたことは今の私にもわかります。この大学でこんな素晴らしい先生方や友人達に出逢えて、私は本当に幸せです。ありがとうございました。



### Language as a Window into Human Nature

欧米言語文化学科担任 菅山 謙正

学部卒業おめでとう。言語文化学という名称は、ほかの大学でも使われていますが、皆さんはこの学問の名称をどのように考えるでしょうか。あるいは、この学科の名前が指示する内容を考えたことがあるでしょうか。卒業を機会に自分が学んだ学問のことを今一度内省し、4年間の蓄積が、社会に如何に役立つか考え、実行してみてください。ことばは文化の一部ですが、見える形式としてのことばをもとに、我々はそのことばを話す人々のものの見方、周りの世界の捉え方を推測するわけです。したがって、違ったことばを操るひとびとは異なった世界観を持つともいえます。たとえば、英語の話者は、'There was this [イタ、unstressed] unicorn standing there singing.' (Jackendo? 2012) のような表現を使って、物の存在を表しますが、日本人は、この意味内容をこうは表現しません。なぜでしょうか。考えてみてください。冒頭の Steven Pinker の言葉を待たなくても、ことばは人間の心を探る窓なのです。

## 硬テでの4年間

欧米言語文化学科 S.H

大学生活において勉学はもちろん大切なことですが、それだけが大切ということはありません。様々な部活、サークルに所属し、大学生活を満喫することも勉学と同じくらい大切なことだと私は思っています。

私は硬式テニス部に所属していましたが、そこで大切な友人がたくさんできました。テニスコートや部室に行けばたいてい誰かいます。そこで、どうでもいいようなことで笑い合ったり、どこかへ遊びに行ったり、時には真剣な話をしたりと、小さな部活でしたが、そこでできた友人は私の人生の中でも非常に大きな、かけがえのないものになりました。

また、部活やサークルには様々な人が集まり、その一人一人が多種多様な考えを持っています。時にはその多様性故にいがみ合うこともあります。私の周りには先輩、同回生、後輩の全てに素晴らしい友人がいました。同じ夢を持つ者、強い志を持つ者、それらに感化され、人間として成長するということを実感することができました。

ここでできた友人や経験は一生の宝物であり、卒業後もこの部活は帰ってくるることができる居場所のようなものです。楽しい4年間にしてくれたことに感謝します。



## はなむけの言葉

歴史学科担任 川瀬 貴也

皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんは、2008年に発足した歴史学科の初めての卒業生として、今日の日を迎えられました。試行錯誤の中、立派な（一部例外あり？）卒論を書かれたことは、誇りに思ってください。大学で学んだことは、社会に出るすぐに役に立つような「テクニック」ではありません。しかし資料を集めて、それを整理し、筋道を考えまとめる、という作業は、社会に出ても「やることは一緒」です。

僕が皆さんに申し上げたいことはただひとつ、大学時代の友人を大切にしたいということです。年を取れば取るほど、若い時代の友人というのはありがたくなってきます。会った瞬間にぞんざいな口をきける友人、自分を批判してくれる友人というのは、一生の宝です。大学というのはそういう友人を作る場所だと言っても過言ではありません。

それでは皆さん、また会う日までお元気で。

## 出会い

歴史学科 W.M

大学に入り、京都で一人暮らしを始め、痛切に実感したことは、私は日々沢山の人の関わり合いの中で生きている、ということです。教授・学友・サークル仲間・バイト仲間・共通の趣味を持つ友人、その繋がりから新たに広がった友人。4年間を振り返ると、数多くの出会いが、鮮明な記憶と共に蘇ってきます。最初は、人と話すこと、深く関わることに消極的だった私ですが、弓道サークルに入り、個性的な仲間たちとの出会いをきっかけに、自分の殻を破って飛び込む勇気ももらいました。そして、ひとつ出合いを重ねるたびに、新鮮な刺激を受け、自分自身が一歩、また一歩と成長できたと思います。これまで出会った方々とのご縁に感謝し、これから訪れるであろう沢山の出会いに真っすぐ目を向けて、社会に出てからの人生を、価値あるものにしていきたいです。最後になりますが、4年間にわたり温かく見守ってくださった先生方、本当にありがとうございました。

## 文学研究科

### がんばっていきましょう

国文学中国文学専攻担任代理 小松 謙

修了おめでとうございます。入学以来、思えば長いつきあいですね。その間にいろいろあって、それぞれ大変だったことでしょう。そうした中で、今日こうして修了の日を迎えることができたことをとてもうれしく思います。これからは、進学する人、社会に出る人、それぞれですが、あなた方ならがんばっていけるに違いありません。自信を持って進んでください。幸運を祈ります。

## 修了にあたって

国文学中国文学専攻 F.Y

振り返ってみると、初めてこの大学の門をくぐったのが昨日の事のように思い出されます。学部生としての四年間を終え、自ら選んだ大学院進学の道でしたが、いざ始まってみると研究は思うように進まず、先に卒業した友人達と自分を比較して焦ったこともありましたが、でも、修士課程で得た経験や知識はそんなコンプレックスと決別させてくれるくらい貴重なものだったと、今は実感しています。

勉強の足りない私がこの日を迎えることができるのも、丁寧にご指導くださった先生方と研究室の皆さんからの沢山の励ましのおかげです。卒業後もふとキャンパスを訪れる先輩方や旧友が大勢いる、そんな温かな場所に身を置けたことはとても幸運でした。一生の財産となる時間をここで過ごせたことに感謝します。

## The Road Onward

英語英米文学専攻担任 ラリー・ウォーカー

At this time of year we say "bon voyage" to our graduates with a sense of hope and excitement. In the time you have spent here much has been accomplished. The world is now waiting for you. We hesitate to say "be careful," or on the contrary, "grab every opportunity," for the future is yet unknown and these decisions are yours. What is certain is that you have matured and prepared yourselves for the struggles you face in your respective careers. You have seen that life is full of ups and downs. You must therefore trust your instincts and resolve to achieve steady progress at any reasonable sacrifice. Embrace obstacles and cherish any challenge to the goals you aspire to in your heart. Fight for what you believe is right and continue to contribute to your community wherever you may find yourself. Take comfort and confidence in knowing that no one will ever be better at being you than you are. Chase your dreams like a warrior!



## 何の為に学ぶか

英語英米文学専攻 F.E

気付いたらあっという間に過ぎていました。学部 の頃を含めて6年、多くのことを学び、経験したと 思います。学業以外にも学んだことがありました。

「何で英語やらなあかんの?日本で一生暮らすから いらんし」バイト先で小・中学生に時々尋ねられます。 私も長い間そう考えていました。その答えを本学で 学んだのです。

学ぶことは直接的・間接的に、自分の可能性や視 野を広げることだと思います。将来何が役立つかは 誰にも答えられませんが、学んだ経験はきちんと自 分に返ってきます。先生から伺った話、いつか読ん だ本、解いた問題など、レポートや論文の内容に苦 戦しても、ふとした折にそういった事柄が浮かんで 助けてくれました。

この経験を大事にして、これから先も学び続けたい と思います。お世話になった先生方、事務員の方々、 先輩、友人、家族に心から感謝しています。

## 運をつかめ

史学専攻担任 上島 享

大変な時代になったものだ。でも、嘆いてばかり いても仕方がない。置かれた時代・社会の中で、発 想するしかない。しかも、前向きに。〈実力〉が正当 に評価される時代になったと考えればよい。

〈実力〉とは、何か。8割以上が〈努力〉だと思う。〈努 力〉を口にするのが格好悪いのは、それなりの仕事を している者なら、当たり前のことだからだ。他人の 数倍〈努力〉を重ねることなど、実に容易い。問題は それからだ。〈努力〉では決して乗り越えられない〈巨 大な壁〉に出会った時、そこでどうするのか。それが、 決定的な分かれ目だろう。結果も全く違ったものにな るだろう。

運・不運はもちろんある。ただ、めぐってきた運 をつかむか、逃すか。それは日々の蓄積たる〈実力〉 によると思う。

注記 これはちょうど10年前に、若気の至りで書いた 文章ですが、気持ちは変わらないので、再び、皆 さんへの饞のことばとして贈ります。

## 二年間を振り返って

史学専攻 N.A

大学院に入学して、あっという間に二年が経ちまし た。入学した頃、環境に慣れるのに必死でわからない ことだらけの私に、周りの方々は根気強く様々な 事を教えてくださいました。大学院では熊野古道を はじめとして、現地での聞き取りなどの調査をおこ なるなど初めての体験が多く、調査旅行では先輩や 後輩と一緒に話して話し考え、楽しく学んだことが 思い出に残っています。また調査をおこなうことによ って、文献だけではわからない人の暮らしに触れ、 広い視野を持って学ぶことの大切さを実感しました。 この二年間は、毎日がとても充実していて、勉強面 だけではなく、生活の面でも多くの事を学ぶことが できました。支えてくれた家族や共に学んだ友人、 御指導くださった先生方、先輩方に心から感謝して います。ありがとうございました。



## 公共政策学部・公共政策学研究所

### 「福祉社会を目指して公共政策を拓く」

公共政策学部長・公共政策学研究所長 小沢 修司

学部、大学院博士前期・後期課程を卒業・修了される皆さん、おめでとうございます。学部卒のみなさんは「公共政策」として再出発した学部の初めての卒業生となります。確か入学の時、みなさんには宿題を出しました。「福祉社会」って何なのか？「公共」って何なのか？4年間を通して考えてほしいと。その答は出ましたか？物事を狭く捉えることなく広い視野で多面的な問題関心を持ち社会のこと人間のことを考えてこられたみなさんのことです。もうその答えはそれぞれお持ちなのではないでしょうか？多様な個性の共生、そしてみんなの幸せと自分の幸せに思いを馳せる、そんな社会を目指しましょう。そうする中で、「福祉社会を目指した公共政策は切り拓かれて」くるものと思います。

よき人生を！

### 公共政策学部

### 公共政策学科を卒業される皆さんへ

公共政策学科担任 川勝 健志

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

皆さんのご入学と共にその歴史を紐解いた公共政策学科で過ごされた四年間はいかがだったでしょうか。

本学科で学ばれた知識や積み重ねられた経験は、社会に出てすぐに生きるものばかりではありません。しかし皆さんはきっと、今を生きる人たちはもちろん、未来を生きる人たちの暮らしや社会のあり方について、共に考えていくために必要な素養や感性が磨かれていることに気づく時が来ると信じています。卒業後、もしそのような瞬間に出逢うことができた時には、ぜひ知らせて下さい。私は皆さんの後輩にそのことを語り継いでいきたいと思っています。

また、社会の一員として新たな問題意識に芽生え、再び学びたくなったら、今度は大学院公共政策学研究所にも来て下さい。今日でしばしのお別れですが、ぜひまたお会いしましょう。皆さんの新天地での活躍を期待しています。



### 4年間をふりかえって

公共政策学科 K.Y

府大に入学し、大学生として4年間下宿をしながら日々を送ってきたけれど、感じるのはまだまだ大学生でいたいと思うほど充実し、成長でき、褒められたことばかりしてきた訳ではないけれど、大切だと思えるありふれた日々だったという事です。学科に先輩は居ずともサークルを通し他学科の先輩から、先生方から、慕ってくれる後輩から、志を共にする仲間から、多くを学びました。そんな府大と離れてしまうのは実に淋しく、公共政策学科はいつもテンションの高い中島先生、知識量や人生観が人間の域でない大島先生、外で会うとなぜかよそよそしい小沢先生、笑顔が優しい川勝先生、ダッって言ってほしい大田先生。個性的で親身に話を聞いてくれる先生ばかりで、お世話になったことに、学ばせてもらったことに本当に感謝しています。

### キー世代、「？」を点灯させ続けて

福祉社会学科担任 服部 敬子

晴れてご卒業！(^-^)!「福祉社会をめざし公共政策を拓く」新しい学部となって最初の学科担任として心からお祝いを申し上げます。…とはいえ、学校教育は卒業したら「おしまい」というものではありません。内田樹氏は、卒業時点での成績や資格などではなく、「卒後教育」(卒業後の自己教育)こそが、最期に「ああ幸福な人生だったなあ」と振り返ることができるために不可欠である、そして、自己教育に必要なのは、軽々に自己評価を下さないこと、「私はいったいどんな人間なんだろう」「どのような未知の資源が眠っているのだろう」という問いがずうっと頭の上に「？」で点灯している限り、自己教育は続くはずであると述べておられます。

「戦前/後」と並んでわが国の重要な時代区分になる「震災前/後」の変わり目を、成人への移行期に体験されたみなさんは今後、バブルに翻弄された親世代、貧困と隣り合わせの子ども世代、海外からの労働者たちとも手をつないで新たな日本を築いていくキー世代となります。重い課題ですが、これも「？」点灯させておいてくださいね。

## 新たな出会いから新たな成長を得た大学生生活

福祉社会学科 H.S

本学公共政策学部に入學し、私が学んだ一番のことは「人とのつながりの大切さ」です。私は今まで自分の努力で人生を切り開いてきたという自信がありました。しかし、とても身近な距離で接していただいた本学部における先生方と出会い、大学院進学やその後の進路についても熱心に指導していただいた大学生生活の中でその考え方は変わっていきました。確かに自分の努力はとても大切だと思っていますが、自分の力を最大限に発揮するためには、周りの人々の支えがあってこそ可能だと知りました。今まで自分の力を自分で高めることしか考えていなかった私が、このような考えに至れたことは私にとって大いなる成長だと思いますし、とても貴重な経験をさせていただけたと感じています。私の人生の中でこれほど人々からの支えを実感したことはありません。私は、「人とのつながりの大切さ」を教えてくれた我が公共政策学部の今後の発展を心から願います。

## 公共政策学研究所

### 修了おめでとうございます

公共政策学専攻担任 大田 直史

大学院公共政策学専攻博士前期課程の修了おめでとうございます。

みなさんは、この2年間の大学院における研究の成果として修士（公共政策学）を受けられました。多彩な分野の講義や多様な個性の教員・同僚院生と出会うことを通じて、それぞれに公共政策学をつかまれたことと思います。新年度からは、それぞれの国、職場、研究などの場で、それを展開していただくことを期待しています。私もみなさんと同時に府大を修了（中退?）しますが、新しい地に府大公共政策の種を蒔こうと思います。

みなさんのご健康とご活躍を願っております。

### 私のたからもの

公共政策学専攻 M.H

多くの人に支えられて日々を送っている、そういう当たり前のことを再確認した2年間でした。修士論文を書くにあたり、その過程は苦しさから解放されると同時に光が射し、射したと思えばまた新しい苦しみが出てくる、その繰り返しのような感じでした。しかし、指導教員の先生や仲間をはじめ多くの方に支えて頂くことで前に進むことができました。研究以外の活動でも多くの方に支えられ、多様な経験や視点、人

との出会いを授かりました。自分がこの2年間でどれほど、ものの見方や分析力等を身に付けたかにはあまり自信を持つことはできません。ですが、素敵な方たちに出会い、時間を共にすることができたこの2年間、そして福祉社会学部で過ごした4年間は、私のかげがえのない財産です。大学・大学院を通して私を支えてくださった先生方、友人、先輩・後輩、学務課の方や学外の方、そして長い間学生生活を支えてくれた両親、本当にありがとうございました！

### 旅立ちの季節に

福祉社会学専攻担任 野田 浩資

修了、おめでとうございます。皆さんの旅立ちを心からお喜び申し上げます。

皆さんが大学院で学ばれたことは、これから時間をかけて大きく花開いていくことと思います。修士論文での研究は、調査や実験によって社会とつながりながら進められます。集められた調査結果や実験データは、解釈され、理論化され、その過程において、論理性とともに社会性を備えていきます。研究が深められていくなかで社会との関係も深められているはずです。

学問の領域と現場との間の境界を自由に行き来し、大学院で学ばれたことを現場での経験と融合し、それぞれのかたちで個性的に表現されていかれることを期待しています。

皆さんのご活躍を楽しみにしています。

### 未来への一步を踏み出す前に

福祉社会学専攻 Y.S

「自分の物差しが持てるようになった」—大学院での2年間、府大での6年間を通じて私が特に実感していることです。自分の考えを誰かに伝えたり、初めて行動に移したりするとき、私はいつも足がすくみます。それはきっと今でもそうです。けれども府大という場所は、私が立ち止まっているのを許してくれません。一步を踏み出させてくれたのは、本当に素敵な先生方と仲間たちでした。「私が私であっていい」というまばゆい空間で、私は驚くほど多くの新鮮な発見や経験をすることができました。それはいつしか今の自分をつくってくれたように思います。私はまだ発展途上ですが、この小さな学び舎から離れなければなりません。でも、きっと大丈夫。府大で積み上げてきた礎は、私が歩いていくための追い風だと信じています。今は何よりも大きな感謝を伝えたいです。熱くご指導していただいた先生方、素敵な仲間たち、支えてくれた家族に深くお礼申し上げます。

## 生命環境学部・生命環境科学研究科

### 心豊かに健やかに、そして晴れやかに

生命環境学部長・生命環境科学研究科長 田中 和博

ご卒業・ご修了おめでとうございます。人生の大きな節目の一つを達成されましたことを心からお祝い申し上げます。これから次の新しい目標に向かって、それぞれの船出が始まりますが、今後のご活躍とご発展をお祈りいたします。今や世界は経済問題から環境問題に至るまで実に多くの難題を抱えており、先行きが不透明な状況です。資源やエネルギーを大量に消費する物質文明から脱却する必要があることから、時代が大きく転換しようとしています。社会という大海では、時には霧に覆われたり荒海になることもあるでしょう。本学で学ばれた知識や技術、そして経験をもとに、しっかりとした羅針盤を複数携え、潮流に流されることなく目的地に向かってください。複数の羅針盤、すなわち、多様な価値観を持つことは心を豊かにすることにつながります。笑顔を忘れず、晴れやかさを演出する気持ちも大切にしてください。皆様のご多幸とご健康を心からお祈りいたします。

### 「学而不思則罔、・・・」

生命環境学部附属農場長 三野 眞布

高校生の時、父より「学<sup>くら</sup>びて思<sup>あやつ</sup>わざれば、則ち罔<sup>くら</sup>し。思<sup>あやつ</sup>いて学<sup>くら</sup>ばざれば、則ち殆<sup>あやつ</sup>し。」という論語の言葉を教わった記憶があります。日本経済高度成長期の会社で多忙な日々を送っていた彼からすれば、自分の「愚息」の様子を心配しての言葉であったようです。改めてこの言葉を考えると、今のこの国の状況はその意味の深さを感じさせるものだと言えます。様々のことを学び知識があっても自ら考えを巡らさなければ、世の中の諸問題は解決しない。また、知識が十分でないのに独りよがりな論を振り回しても相手にされないばかりか害にもなる。卒業、修了される皆さんは、これまでの学びで知識を得、また新たな知識をどのように身につけるかの術を知りました。次はそれの中で良くこなし、世の中のことと照らし合わせて考えることが求められています。そして願わくば、それが良い結果を生み出すことです。決して「思而不学則殆」とならない皆さんのこれからの活躍に期待します。



### 森林科学総合実習

生命環境学部附属演習林長 池田 武文

森林科学総合実習ですごした大野演習林での長い日々はいかがでしたか。生命環境学部森林科学科が新たにもうけ、その実習に初めて臨んだ学生が、皆さんです。雨の中での枝打ち、考えていた方向に倒れてこない木、どこに逃げればいいのか右往左往、でも、音を立てて木が倒れたときの爽快感、登っているはずなのになかなか上に行けない、などなど。皆さんにとって六つの演習林での実習が、講義だけではなかなかわからない様々なことを体得するきっかけになったことと思います。知識、技術だけでなく、わずかでも「知恵」、「技」を身に付けることができたのではないのでしょうか。フィールドはとても大事な場です。課題はフィールドにあります。

演習林での実習にはいつも演習林職員の方々の様々な支えがありました。

卒業、修了、おめでとうございます。



### 生命環境学部

### 勇者不懼

生命分子化学科担任 佐上 郁子

卒業おめでとうございます。

4年間の大学生活は、充実したものでしたか？担任としては、時々いろいろな事件もありながら、楽しい4年間でした。特に卒論研究には、皆さんの確かな成長の手応えを感じています。

友と笑った日も、一人泣いた日も全てあなたの力になります。実社会へ出る皆さんも、大学院へ進学する皆さんも、これからが自分の力でよりいっそう活躍できる時です。勇気をもって第一歩を踏みだし、生命分子化学科の一期生としての誇りと責任を持って、懼れることなく大胆に進んでいくことを期待しています。また、人を思いやる心を大切に、柔軟にそしてのびのびと一人一人の夢に向かって進んでください。そして時には、大学を思い出して遊びに来てくださいね。

## 欲張りであること

生命分子化学科 N.S

私が生命分子化学科を選んだのは、「化学好きやし」という漠然とした動機によるものでした。しかし、1年、2年と学ぶにつれ専門的な講義が増えていき、数ある分野の中でも特に生化学に興味を持つようになりました。細胞高分子化学研究室に配属されてからは、高校時代に物理選択だったため躓くことも多々ありましたが、熱心な先生方や親切な先輩や同輩に恵まれ、楽しく研究生活を送ることができました。

また学業以外では、軽音楽部とバスケットボールサークルに所属し、学園祭でのライブや模擬店などの学校行事に参加するなど、様々なことを経験しました。

本大学での4年間を通して学んだことは、「とにかくやってみる」ことの大切さではないかと思います。受け身になるのではなく、何事もまずやってみる。そうすることで伴ってきたものこそが自分そのものであり、たとえ何か失敗したとしても、それも含めて自分なのだと思うようになりました。最後になりましたが、4年間私の学生生活を支えてくださった先生方や友人、先輩や後輩、そして家族に感謝します。ありがとうございました。

## I have a dream

農学生命科学科担任 寺林 敏

I have a dream. これは、アメリカのキング牧師がある演説で述べたあまりにも有名な言葉です。「私には夢がある」。このような熱い「思い」、強い「決意」を、大学を卒業する皆さんにも持ってほしいと思います。君たちの「夢」を育て、その「夢」の実現に向けて努力できる最良の「場」を見つけ、そしてそこに居ることが大切です。「私にはいきたいところがある」。そこはきっと、君たちが活躍し、輝くことのできる「世界」です。「卒業おめでとう！ くれぐれも体には気をつけて、いってらっしゃーい！」

## 4年間を振り返って

農学生命科学科 K.M

大学生活を振り返り、多くの人に支えられ、多くのことを学ぶことができたと感じています。

先生方は熱心に講義をしてくださり、質問を快く受けてくださいました。先生との距離が近く、講義以外の場面でもたくさんお話をすることができ、たくさんのことを教えていただきました。大学では友人にも恵まれました。特に4回生になってからは卒業論文の研究でつらい時によく話を励ましあいま

した。学科が違って同じ目標をもって話ができる仲間もできました。クラブでは、私が理解できるまで先輩方に根気よく指導していただきました。大学での人との関わりの中で、気づかされることが多く、良い刺激をたくさん受けました。私が充実した4年間を過ごすことができたのは、これまで支えてくださったすべての方のおかげです。その感謝の気持ちを忘れずに、新たな一步を踏み出そうと思います。

## No excuse, be brave.

食保健学科担任 佐藤 健司

卒業おめでとうございます。皆さんはこれから新しい世界に入り、多くのことを経験して行くことになると思います。最初のうちは家族や先輩の方々の意見・指導や指示に従うことが多いと思います。しかし、指示を受けてもそれを了承したらあなた自身の責任になります。うまく行かない時にその結果に向かい合う覚悟が必要です。まさにNo excuseです。また日々、小さな事でもつい後回しにすることがあるかもしれません。人間、楽をしたい理由は驚くほど簡単に考えつきます。これを乗り越えるにも小さな勇気が必要になります。人生の中で大きな危険を冒すような勇気時には必要になるかもしれませんが、社会や家庭の中で小さな勇気の積み重ねが大事だと思います。迷った時、楽をしようと思ったときBraveとつぶやいてみてください。ご活躍を楽しみにしています。See you.

## 感謝

食保健学科 I.Y

京都府立大学で過ごした4年間を振り返り、私は3つのことに感謝したいと思います。

1つ目は、「先生への感謝」です。先生達からは授業や特に実習を通して、様々な角度から物事を考える力と、それらを相手に表現する力を私は学びました。10代の自分と今の自分を比べたら、四周りぐらい、人としての器が大きくなったと思います。4年間ありがとうございました。

2つ目は、「大学生活をサポートしてくれた人達への感謝」です。毎日校内の掃除をしてくれる人や食堂で美味しいご飯を作ってくれる人、生協で私の無駄話に付き合ってくれる人、その他大勢の人たちのサポートのおかげで、私は最高の環境で4年間を過ごせることができました。この場をお借りして感謝の気持ちを伝えたいと思います。

最後に、「友達、そして仲間への感謝」です。これを書き出すと400字では収めることができません。だから一言だけ、「ありがとう」と伝えたいです。そしてこれからもよろしくお願いします。

## 山に登るが如く

環境・情報科学科担任 佐藤 雅彦

皆さんが入学してから早4年が過ぎようとしています。皆さんにとって大学の4年間は如何だったでしょうか?きっとたくさんの思い出と共に素晴らしい友人ができたに違いありません。大学時代の思い出と友人は、人生におけるかけがえのない宝物です。どうかこれからも大事にしてください。

皆さんの卒業に当たって、ふと自分の大学時代を思い出すと、ワングル部で山ばかり登っていたことを思い出します。重い荷物をしょって山を登っているときは、このつらい時間が永遠に続くのではないかと思いましたが、やっと頂上まで登った後に見た眼下に広がる雄大な景色を今でも鮮明に思い出します。

皆さんは、これから大学を卒業してそれぞれの道を進んでいく訳ですが、これからの人生は楽しい事ばかりでしょう。苦しいときは、全く先が見えず絶望的になったりするものですが、努力していればいつか道は開けます。苦しい思いをして一步一步山を登っていればいつかは頂きにたどり着くように、たゆまぬ努力はいつか必ず実を結びます。どうかこれからも自らの目標に向かって頑張ってください。

## 私の4年間

環境・情報科学科 H.S

京都府立大学に入学し、4年が経ちました。早いもので、卒業の時期がやってきました。決して規模は大きくないけれど、だからこそ友だちとの距離を縮めることができたこの大学で、多くのことを経験させていただけたと思っています。まさかこの私が部長になるとは思ってもみなかったフラダンス部での経験、行く前は不安で仕方なかったけれど本当に貴重な経験ができた教育実習、研究しながらもたくさんの人に助けられながら素晴らしい思い出を作ることができた研究室生活・・・もちろん辛いこともありましたが、この大学でしか味わえない4年間の楽しかった思い出があふれてきます。人とのつながりがこんなにも温かいものだと思えて感じられるような大学生活を送ることができて、私は幸せです。この大学4年間で学んだすべてのことが今後の私の糧になると思います。そして、この4年間で出会えた全ての方々に本当に感謝しています。ありがとうございます。

## いざ行かん

環境デザイン学科担任 田淵 敦士

旅に出よう。すべてを捨てて旅に出よう。知識と経験は、人生を小さく凝り固まった古くさいものにしてしまう。そんな知識や経験はすべて捨ててしまおう。

緩やかに流れる大学での生活を離れ、激しく動く世界に出て行く君の旅立ちを応援したい。激しく動き不安定な時代の中に飛び込み、未来を作る楽しみを大いに味わって欲しい。どのような未来を作ることになるのか、それは君の手の中にある。自由に未来を作って欲しい。大いなる未来を作る自由を楽しんでほしい。思い描くように明日が来ないかもしれない。それどころか思い描いているのとは全く逆の明日が来るかもしれない。でも、それもまた楽しい未来だと思う。何が起こるか分からないからこそ、そして思い通りにならないからこそ人生は楽しい。そんな未来があることを君はまだ知らない。自分の頭で考え、自分の足で歩き、自分の手で未来を作ろう。そんな新しい未来に向かって、さあ出発だ。

## 環境デザイン学科

環境デザイン学科 S.S

高校生のころ「府大内の緑は友達や先輩、先生方に多くの刺激や助言をもらってのびのびと大学生活を送ることができる府大を象徴している気がします」「自然に囲まれたゆったりとした空気が漂うキャンパスで、自分の興味を深めてください」という大学紹介にとっても魅力を感じました。環境デザイン学科では「生活者の視点」と「建築を中心にインテリアから住宅、都市、地域レベルまで幅広く総合的に学ぶこと」を大切にしています。多分野の研究室がならぶ不思議な学科ですが、「よりよい環境を」という思いを持った人たちが集まっています。先生も学生もみんな、真剣でありながら、遊び心も忘れず、いつもとても心地よい雰囲気にも包まれていました。多角的な視点から多くの助言をくださった先生方、研究について一緒に話し合い様々な発想を教えてくれた学科内外の友達や先輩、ともに学ぶことができた大切な時間をありがとうございました。

## 林科「1期」生の皆さんへ

森林科学科担任 池田 武文

生命環境学部 森林科学科第「1期」生のみなさん、ご卒業おめでとう。

新学部最初の学生として入学し、いま4年間が終わろうとしています。いかがでしたか。さて、皆さんは学科名をたびたび「林科」と呼んでいましたね。この呼び方を私はとても嬉しく感じていました。これ

には単に森林科学ではない、大事な何かが込められています。そのことを感じることができましたか。ところで、皆さんが最終学年になる年、日本では大変なことが起きてしまいました。「想定外」という言葉が飛び交いました。本当に想定外だったのでしょうか？自然・森林のいとなみを知っている皆さんにとって、千年という年月が想定外というほど長い時間ではないことがわかると思います。巣立っていく皆さん、「林科」魂を大切に、大局的にものごとをとらえ、考え、そして活躍されることを楽しみにしています。お元気で。

## 京都で過ごした4年間

森林科学科 H.M

振り返ってみると、私は入学前に理想の学生生活をあれこれイメージしていたが、現実とは全く別のものであった。陽の当たるテラスで飲むはずの珈琲は、食堂で飲むお茶に変わり、週末の京都観光は部活動の練習に変わっていた。しかし、一生付き合える友達と楽しい時間を過ごし、仲間と練習に励むことで絆を深めることができた。長い夏季休暇に何度も行くはずの旅行は、大野演習林での泊まり込みの実習に変わっていた。しかし、実習では数々の貴重な体験をすることができ、なおかつ美味しいご飯や、道路に寝そべってたくさんの流れ星を堪能することができた。私はこの4年間の学生生活を、この大学で送ることができて良かったと思う。また、卒業後は地元で森林関係の仕事をするという入学前からの夢が、この4月から現実となりそうである。

卒業するにあたって、これまで私を支えてくださった全ての皆様に感謝の気持ちを伝えたい。本当にありがとうございました。

## 生命環境科学研究科

### 楽しい時間

応用生命科学専攻主任 佐藤 健司

修了おめでとうございます。本専攻は規模が大きく、異なるバックグラウンドを持った教員から構成されています。修士論文の発表会でもヒトの行動・健康から動物への作用、作物の生産、細胞・分子レベルまでの多様な分野が研究対象となっていました。私は修士論文の発表を全て聞きましたが、皆さんはいかがでしたでしょうか。皆さんもこれまで学会にも参加されたと思いますが、大部分は自分の研究と関係する発表を聞かれたと思います。修論の発表会のように多様な内容の発表を聞くとまた新しい発見がありますし、発想も広がり、とっても楽しい時間でした。今回は自分の発表

でいっぱい他の発表を聞く余裕がなかったかもしれません。今後は仕事に直接関係ない分野も積極的に勉強し視野を広げると同時に新しい発想を養っていただきたいと思います。新しい発見は本当に楽しいです。皆さんと楽しい時間をこれからも共有できれば嬉しいです。

## 6年間を振り返って・・・

応用生命科学専攻 Y.M

桜のつぼみが実るころ、毎年心がさびしくなる。とうとう今年は私の番。お世話になった先生方、後輩たちに見送られながら今日、門出の日を迎えた。思い返せば、私の大学生活は苦勞の繰り返しだった。単位未取得による4回生への進級の危機。大学院試験の失敗。実験での失敗の連続。こんな私がここまでこられたのは決して一人だけの力ではない。陰ながら支えてくれた人たちがいたからだ。先生・先輩方からのやさしく時に厳しい言葉、後輩を持った責任感、辛いときも一緒に励まし合った仲間……。あの一言、あの行動のおかげで今の私がいる。この大学生活で経験したことは今後、人生に大きく役に立つだろう。そんなことを思いながら、今日学びの庭を後にした。

## 専門性とは何か

環境科学専攻主任 大場 修

環境科学専攻修了生のみなさん。修了おめでとうございます。皆さんの多くは学部の4年間を経て博士前期課程の2年間を過ごされたので、6年間の学生生活を今終えようとされています。

考えてみれば、その後半、すなわち卒論に取り組んだ1年を含め3年間を研究に、あるいは設計に取り組んでこられたわけです。学生時代の半分の時間、自身の研究課題と向き合ったこととなります。博士課程の場合、さらに3年を要します。

修了生の数だけあるテーマの下で、違った研究活動を行い、様々な研究成果を手にし、それが審査を経て認められ、学位が授けられました。森林科学、生活環境科学、環境数理情報学と言われてもピンと来ませんが、皆さんは具体的なテーマを通してそのスキルを高め、専門性を深められました。

専門性とは何か。分野も手法もテーマもそれぞれ異なる研究を通して、目標とする専門性は多様のように見えます。しかし、物事に客観的に向き合う姿勢、何が重要なのかを見極める判断力、解決の糸口を見いだす洞察力。それぞれの分野で求められる高い専門的能力は、突き詰めれば共通します。学生生活を通して、みなさんは様々な自らを高め、専門的な見識を得たはずで、学位はその証なのです。

## 大学院の2年間

環境科学専攻 Y.M

入学前は、大学のただの延長だと思っていました。しかし今振り返ってみると、学部と院は全く質の異なる時間だったと思います。一言で言うなら、自分自身と向き合わざるを得ない過酷な2年間だったのかもしれない。

時間や行動の面で自由度が増えると同時に、自分で考えて決断をする場面も増えました。これまで友達に頼ってふわふわとしていた私は、みんなが卒業した大学で研究を続けるという状況になって、そんな当たり前のことの難しさに初めて気づかされました。

しかしだからこそ、私にとってこの2年間はとても

貴重だと思っています。多くの人に支えていただき、「愛着意識」を研究したいという自分の気持ちに素直に向き合うことができました。この経験を糧にして、今度は自分が何かを返せるように、社会で“顔晴りたい”と思います。

そして、いまだに心配をかけてばかりの父、母、兄に早く安心してもらえるようにならねば、と思います。



## 後援会理事長・同窓会長からのメッセージ

### ご挨拶

後援会理事長 原田 研一

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

皆さんは人生において貴重な時期をこの京都府立大学で過ごされました。好むと好まざるとに関わらず、皆さんはこの京都府立大学の卒業生として、社会へ出て行かれるわけです。ここで培われた、知識や経験を大いに活かし、誇り高く堂々と社会の海に乗り出していただきたいと思っております。とはいえ、卒業してすぐに遣り甲斐のある仕事や大きな仕事を任されるほど世間は甘くはありません。自分が学んだこと、身に付けた事を活かせず、不満に思われる時もあるでしょう。しかし、そういう時こそ雌伏の時と考え、将来の人生設計をしっかりと立て、力を蓄えていただきたいのです。そしてその下積み時代を耐え、しっかりと実力を蓄えた者にこそ、大きなチャンスが与えられるのではないのでしょうか。あの徳川家康も、人質時代から始まり、信長、秀吉と仕え、長い辛苦の後あの大業を成し遂げたのです。皆さんがやがて世の中で活躍し、社会に貢献されて、さすが府立大の卒業生だといわれる日が必ず来ると、私は信じています。皆さんの奮闘を心から期待申し上げます。



### 自信こそ人生最大の武器

同窓会長 北川 壽一

ご卒業、ご修了おめでとうございます。

今、日本社会は内憂外患、大変な状況にあります。こうした中、ご卒業、ご修了されていられる皆さんは、就職されるにしても或いは進学されるにしても、非常に厳しい状況の中に身を置くこととなります。

しかし、いつの世も社会は常に刻々と変動し、これから30年先どころか1年先にどうなっているのか、誰にも予測できません。今一番心配される大地震ですら、どのような規模で、いつどこで起きるのか誰も予測できません。人生とは分からないことだらけです。

その中で、ただ一つ言えることは、各人の人生は各人の心の働きによって決定され、周りの環境によって決定されるのではないということです。人生の面白さは先が見えないことです。貴方が将来どのような状況におかれようと常に人生を楽しんで下さい。

そして、本学に在籍したことを、一生、誇りに思い、自信をもって生きて下さい。そうすれば必ず明るい未来が開けてきます。



## 退職教員からのメッセージ

27年間ありがとうございました。

公共政策学部福祉社会学科 高原 正興

3年半しか勤めなかった鹿児島を離れて、1985年春に35歳で着任してからアツという間に27年が経過した。教育研究者として成長すべき30～50歳代をこの大学で過ごせたことは、私にとって何よりの宝物であったと感謝している。その根拠は、第一に優秀な学生たちに恵まれたこと、第二に学問研究と大学・社会のあり方に熱意を抱いた教員が多くいたこと、第三にスポーツや各種の懇親会を通じて教職員・学生との交流を育めたこと、第四に自宅が近いので土日や深夜の研究室を十二分に利用できたこと等である。

教育面では、27年間に137名の卒論指導と5名の修論指導を担当し、授業評価制度の甲斐もあって近年は「いい授業」が行えたと自負している。研究面では反省すべきことが少なくないが、専門の社会病理学研究に加えて、社会福祉系の学科に在籍したことが私に新しい知見を授けてくれた。大学運営面では、特に3代目学部長を4年間勤めさせていただき、一部の「釜座目線」に辟易しながらも、過失なく全うできたかなと思っている。また、近年のACTRによる自殺研究によって地域貢献の扉を開くことはできたようである。

さて、「満期定年」に先がけて退職することには申し訳ない気持ちを禁じえないが、「老後の居場所」を確保するためにご容赦願いたい。幸いなことに、非常勤で来学させていただけるので、再会の折りにはお見捨てなきようをお願いする次第です。



農学部改革案の顛末

生命環境科学研究科応用生命科学専攻 金本 龍平

府大に赴任して、気がつけば17年半が過ぎていました。この間、個人的には仲間や学生に恵まれ、楽しい思い出も多々ありますが、大学の一構成員としてはいわゆる大学改革に翻弄され続けていたように思います。ただ、その流れとは別に、10年ほど前に、ある出来事をきっかけに「農学部改革案」と言うものをまとめ上げたことがあります。骨子は、理科基礎科目を2年間に渡り、農学部の教員全員が分担して行う。単位制度にのっとり、自学自習を基本とした学習を目指し、それに適した教科書を使う。東アジアを視野に入れた語学教育を展開するといったものでした。その狙いは一貫した教育で体系的な知識を身につけ、論理的な思考力を養う。アジアで活躍できる人材を育成する。教科書を共有することで評価の透明性を担保する等でした。教科書は議論の末、日本には条件に合うものがなく欧米の教科書から選ぶことになりました。この案をまとめ学部の合意を得るのに1年、全学の合意を得るのにさらに2年要しました。また、選んだ教科書を担当教員に配布するのにおよそ200万円を投入しました。紆余曲折の末、いよいよ実行となりましたが、思いもよらず京都府の反対にあい、改革案は一夜で瓦解しました。この度、他大学へ転出することとなり、改革案に協力してくれた当時の若手教員の努力に報いることなく退職することについては申し訳なく思います。ただ、折角与えられた転機ですから、これを活かして府大で積み残した研究をなんとか成し遂げたいと思っています。

末筆になりましたが、在職中に多方面に渡り支えていただいた教職員の方々や学生諸君に厚くお礼申し上げます。

ありがとうございました

生命環境科学研究科応用生命科学専攻 川添 禎浩

1990年4月に京都府立大学の教員（助手）として迎えていただき、本年3月末で22年が過ぎます。この間、所属学部学科が生活科学部食物学科から人間環境学部食保健学科、さらには生命環境学部食保健学科となり、着任当初から同じ学科に残っている教員は私を含めて2名になりました。私自身はまったく変わらないのに、取り巻く環境は変化していったのだとつくづく思います。

これまで私は、教育と研究を、学生との共同作業が大事であるという考えで進めてきました。それは、府大一年目に、私がいまにも卒論や修論研究の指導を急いだため、学生から、「教育と研究は学生あつてのものじゃないのですか」と言われたのがきっかけです。この件は、学生と教員の距離が近いという府大の一番の良さを示すも

のですが、そのときは私自身深く反省し、以後、学生が主体的に学習および研究をするためにはどうしたらよいのかを考えるようになりました。

私は大学院では薬学の生薬学分野だったのですが、府大では食品衛生学分野に移り、最初は困惑しました。しかし、研究テーマの選択と研究を本当に自由にさせていただいたおかげで、研究対象が、食品添加物から内分泌攪乱化学物質、健康食品へと広がり、薬学会環境・衛生部会の実験系（ウェットラボ）の学会では、唯一、食品の安全の研究を継続的に発表している大学のグループになりました。また、食品の安全・安心を確保するための方策や調査研究にも着手し、非実験系（ドライラボ）の社会薬学会でも発表するようになりました。

以上のような、教育と研究は、学生、院生、同僚、職員など多くの人々との共同や協力の支えがあって続けられたことと思っています。長い間、本当にありがとうございました。

文学部日本・中国文学科の井野口孝先生、公共政策学部公共政策学科の大田直史先生が退職されます。長年の間、学生の教育や研究などの発展にご尽力いただき、本当にありがとうございました。

## 平成23年度京都府公立大学法人理事長表彰者紹介

### ◆森林ボランティアサークル 森なかま

学内において、①テーブルベンチや樹木プレートの設置、②LEDクリスマスツリーの展示、③演習林産林地残材を利用したウッドチップの学内散布、④ペレットストーブ（写真）の設置・管理など、整備活動や府大生に対する環境啓発活動に尽力。



学外において、①建勲神社におけるナラ枯れ防除活動、②山城地域におけるNPO法人との合同竹林整備、③与謝野町との合同竹林整備、④水都おおさか森林の市（近畿中国森林管理局主催の環境啓発活動）への出展など、活発な啓発活動を実施。

さらに、①NHKテレビ番組への出演、②京都市主催のシンポジウム「三山におけるこれからの景観づくり」への参加など、学内外において多大な活動成果を上げるとともに、本学の活躍を大いに発信したことが評価されました。

### ◆井田淳子さん（生命環境学部農学生命科学科3回生）

KBS京都及び京都府警主催の「第1回自転車交通安全CMコンテスト」において、準グランプリを獲得し、自転車事故防止の啓発事業に学生としていち早く取り組んだ姿勢、本学学生の活躍を発信した功績が評価されました。

## 平成23年度学長表彰者紹介

### ◆稲本真悟さん（公共政策学部福祉社会学科4回生）

保田大介さん（文学部日本・中国文学科4回生）

本学のクラブ・サークルによる音楽イベント「京都府立大学音楽祭」を企画・立案・運営し、組織・団体によるものではなく、学生有志により、学生同士のネットワークを活用した学生主体の新たな文化的活動として本学の学生文化の発展に寄与したことが評価されました。

### ◆畑崎みさきさん（文学研究科国文学中国文学専攻 平成21年度博士前期課程修了）

修士論文「韓愈の詩と文—古文改革における詩の位置—」（『和漢語文研究』第8号掲載）が第21回蘆北賞奨励賞（財団法人橋本循記念財団主催）を受賞。本学の社会的評価を高めることに大きく寄与した功績が評価されました。

## 博士学位取得者からのメッセージ

### 京都府大での十年間

文学研究科国文学中国文学専攻 H.Y

国文学中国文学専攻の学部生として京都府立大学に入学してから、はや十年以上が経過してしまいました。私は勉強が苦手な高校生でしたが、大学の授業があまりにも刺激的で驚きに満ちたものでしたので「こんなに勉強とは楽しいものだったのか」と感じるようになりました。大学院にすすみ、さらに専門的な授業を受ける中で興味深い研究対象に出会うことができ、現在は非常勤講師を勤めながら研究を続けています。

大学・大学院生活は楽しいものでしたが、順風満帆とはばかりはいきませんでした。実際のところ、私は修士論文がうまく書けずに研究からはなれようと思っていました。今年度、何とか博士論文を提出することができたのは、ひとえに環境に恵まれたからだだと思います。京都府立大学は教員と学生との距離が近く、私も指導教官の先生はもちろんのこと、学科の先生方には大変お世話になりました。何度も挫折しかけながらもここまで研究を続けてこられたのは、先生方が公私にわたって暖かく見守ってくださったおかげです。先輩後輩、同級生にも常に支えてもらっていました。学部時代の同級生は勉強熱心な人が多く、演習室に行けば必ず誰かが勉強していました。初めて書く卒業論文に苦戦しつつも互いに励ましあい、時には気晴らしをしたのはいい思い出です。院生になってからは、研究を続けていく上での悩みや楽しさを先輩・後輩と話し合いました。特に先輩方には、親身にご助言いただきました。

京都府立大学で過ごした十年間で、ライフワークと恩師・友人という人生におけるかけがえのないものに出会えました。先生方、国中専攻の友人、先輩・後輩にこの場を借りてお礼申し上げます。今の感謝の気持ちを忘れず、これからも自分なりに研究を続けていきたいと思っています。

### 私の博士論文の内容

福祉社会学研究科福祉社会学専攻 U.M

私の博士論文は、犯罪学において有力だとされるコントロール理論についてです。第1章から第3章では、理論的考察を行いました。同理論は1969年のT・ハーシの著作が嚆矢とされますが、その基になった研究を初期コントロール理論として同定し、同理論の最新の主張であるセルフコントロール理論、ネオ・セルフコントロール理論までの学説史の展開を追いつつ、論争点の検討を行いました。第4章では、前半部分での考察を受け、日本の大学生、日韓の中学生を対象とした質問紙調査を基にした実証研究を行い、それぞれで、

ネオ・セルフコントロール理論のコア仮説の検証、コア仮説と普遍性仮説の検証を行いました。最後の第5章では、コントロール理論の理論的課題について検討を加えました。補章では対立する尺度を理論的に位置づけたモデルの検証を行いました。主査と副査の先生方からは有益なコメントをいただきました。この場を借りて御礼申し上げます。

### 博士号取得までの9年間

生命環境科学研究科応用生命科学専攻 T.Y

私は2003年に農学部生物資源化学科に入学して以来、京都府立大学で9年間を過ごしました。時間は足早に過ぎ去り、サークルのボックスでピアノ演奏に明け暮れた日々など、学部生時代の思い出も昨日のこのように感じています。

私は博士号取得までの道のりの中で、改めて実感させられたことがあります。それは「何かを本気で成し遂げたいならば、強烈な努力と意志の強さが必要だ」ということ、そして「最初から無理だと決めつけてはいけない」ということです。私は学部生の頃からおっちょこちょいで鈍臭い一面があり、ある実験器具をうまく扱うことができず、下宿先に持ち帰って台所で練習したこともあります。そんな私が博士号を取得するなど当時は想像もできませんでした。後輩の皆さんも、私には無理だと最初から決めつけずに、ぜひ大きな夢や目標に挑戦する気概を持ち続けてください。最後になりましたが、9年間私を支えてくださった多くの方々には心より御礼申し上げます。

### 府大での四年

生命環境科学研究科環境科学専攻 G.I

海外から府大へ博士後期課程在籍四年、考えればもう一回大学のキャンパスライフを京都で過ごしたことになるかもしれません。ゼミでは現地の実測調査を重視していたため、京都近辺を始め、長崎、新潟佐渡など普通の留学生ではなかなか行けないところに行かせていただき、日本各地の風土、建築などを思いっきり満喫しました。ゼミでの講義と発表は、先生とゼミ生の間で多岐なる意見を交わし、大変充実した勉強となりました。ゼミが中心な四年だったのですが、府大のキャンパスが好きでありました。植物園に近接しているため、木が大きく、時にはキジバトなどが見かけられて、勉強で疲れきった心が癒されます。府大に来て四年間、本当に府大に来てよかったです。最後に、指導教官、お世話くださった先生方、ゼミの先輩、後輩の皆様に、感謝致します。

## 西安交換教員からのメッセージ

### 三十年来の交流に恵まれて

文学部日本・中国文学科 劉 建強  
(西安外国語大学交換教員)

私の最初の来日はいまから三十年前であった。二回目の来日はその二年後今回と同様に交換教員という身分で初めて府立大学に来たことである。今日の府立大学では、その昔の面影がキャンパスのいたる所に見られるが、しかし学生さんは勿論のこと、教職員も顔ぶれがすっかり変り、時の移り変わりが強く感じられる。

京都府立大学と西安外国語大学(当時西安外国語学院と称する)との交流プロジェクトは、日中国交回復後十年目にあたる、1982年に始まり、今年で三十周年になる。1970年代の末頃始動した中国のいわゆる開放改革という大きな変革の流れとほぼ同時に進み、文化教育の分野においては比較的国内の対外交流の先頭を切っているものと思われる。世間一気にあふれ出した日本語学習ブームに追われた西安外院の日本語教育に、教員交換という一つの交流項目の実施によって確実な支援がなされ、大きな意味で言うと、国交回復直後の両国の相互理解やさらなる広範囲の国同士のさまざまな交流に多大な貢献をしてきたものだと見ることもできよう。

三十年前と比べて、京都の町にも、とりわけ駅や観光地などでは中国語による案内が随所にみられるように、いま日本では中国語の必要性が確実に高まっていると思われる。京都府立大学でもいま中国語のコースを受ける学生さんはほぼ全ての学科に及んでおり、二十数年前の何倍も受講者が増えているようである。こうした府立大学の中国語教育には、交流関係にある我が西安外大(その担い手は東方言語文化学院)からは惜しみなく協力していくことはいうまでもない。教員の派遣が継続され、いまは相互に留学生の受け入れもおこなわれていて、双方の交流がこのように着実に進められていることに、より多くの学生さんは恵まれていくことになるに違いない。

ここ一年では、私の担当する本科の中国語コースは、一年生は五クラス、二年生は一クラスで受講者は二百数十名となる。学生さんの読み・短文づくりという基礎能力の習得に重点を据えて授業を進めてきた。発音とくに四声は一つの難関であり、教室ではいつも読む訓練を行い、そのつど発音の要領と声をあげて読むことの大切さや有効性を力説している。きれいな発音、または正確で表現豊かな短文が、学生さんの口から飛び出た時、ほんとに喜んでこれまで一つ一つ手解きしたことの遣り甲斐があるという達成感がある。また院生数人の中国語特別講義も担当しているが、中国語によるコミュニケーションができ、とくに中国へ留学経験のある方の言語表現力と、中国事情の理解が相当あったがゆえに、気楽に授業が出来て愉快的思い出になる。

一年間の単身赴任であるが、あっという間に過ぎていったような感じである。文学部の先生方、とりわけ日本・中国文学科の小松先生や林先生または事務の方々にも、いろいろとお世話になり、この場を借りて感謝の意を表したいと思う。

海を挟んでの近い国だから、交通や通信の発達したいまの時代では、過去の時代以上に交流が深めていけると思う。ただの一介の教員という身でありながらも、府立大学と西安外大とのあいだ、教員同士または学生同士のあいだの交流には少しでもお力になればと望み、いずれ西安で皆様に会えることを楽しみにしている。



### 西安外国語大学からのメッセージ

西安外国語大学派遣院生 M. I

西安外国語大学に派遣され、あっという間に半年が過ぎました。学生たちは、日本に留学したい、日本語教師になりたいなど、それぞれの目標を持ち、授業にも積極的に参加してくれています。私自身も、学生たちと関わる中で、さまざまな発見があり、改めて日本語や日本を見つめ直す貴重な機会となりました。

はじめは慣れない環境に戸惑うこともありましたが、学院長をはじめ、日本語学科の先生方がいろいろ親身に教えて下さり、すぐに不安もなくなりました。授業以外にも、学生たちとの餃子パーティーや食事会など、楽しい思い出がたくさんできました。また、休日には歴史ある西安の名所旧跡を訪ねたりと、充実した毎日を送っています。西安での生活も、残り半年となりましたが、学生たちと共に学び、成長できるよう精一杯努力したいと思います。

## 公開講座・シンポジウムから

### ◆ 文学部 日本・中国文学科の教員によるシンポジウム ◆ 「昔の本に見る『笑い』と『スキャンダル』」

昨年12月4日(日)、京都府立総合資料館四階の講堂で、京都府立大学文学部・地域連携センター・京都府立総合資料館・京都新聞社の主催によるシンポジウム「昔の本に見る笑い」と「スキャンダル」を開催しました。このシンポジウムは、文学部日本・中国文学科教員が資料館職員の皆さんと長期にわたって共同で行っている資料館の文献調査や京都新聞連載のコラム「遊びをせんとや」の成果を踏まえ、同館の企画展「古典に学び、古典に遊ぶ」(11月26日～12月18日)にあわせて開催されたものです。講演・討論を担当したのは、いずれも文学部日本・中国文学科の教員です。

当日は天候にも恵まれ、約130の方が参加されました。

定刻の午後1時、林香奈准教授の司会により開会、櫛木文学部長による開会の挨拶の後、まず藤原英城教授が「初代市川團十郎の悲劇—貴重書『けいせい風流衫盃』から—」と題して、江戸時代に初代市川團十郎が舞台上で刺殺された事件について、さまざまな文献を引きながら話しました。

続いて山崎福之教授が、「『笑い』も文学、「遊び」も文学—「狂言」の楽しみ」と題して、狂言のいろいろなおもしろさについて、謡の実演やクイズをまじえつつ語りました。

休憩をはさんで三番目に、安達敬子教授が「物語草子と女子教育」と題して、源氏物語などが女子の教育に利用されていたことについて、興味深いパロディ本などにもふれつつ講演しました。

講演の最後は、小松謙教授が「滅亡を招く帝王学—『帝鑑図説』の不思議—」と題して、明代中国で作られた帝王学の本を受け継いでいった中国と日本の為政者たちが、なぜか滅亡へと向かう不思議な因縁について語りました。

講演に引き続き、休憩をはさんでディスカッションが行われました。会場の皆さんからは非常に活発な質問が出て、講演者と聴衆の皆さんの間で熱心な討論が繰り広げられました。



### ◆ 公共政策学部 府民公開講座 ◆

### 「自治体のトップは、今、何を考えているか—確かな明日を創るために—」

昨年の12月17日に山田知事による講演「ハイパー地方自治の時代」が実施されました。この講演は元岩手県知事・元総務大臣の増田寛也客員教授が担当する公共政策学部の3回生配当科目の地方自治論の一部として実施されました。昨年に続き2回目の試みです。公共政策入門Ⅱや政治学Ⅱといった1・2回生配当科目を受講する学習者にも参加を呼びかけるとともに、府民公開講座として一般公開されましたので、百名強の参加者を得て盛会でした。

現代の国や地方自治体の政策づくりでは、一般の市民の視点で政策を考えられる政治家が求められる一方で、政治家の視点に立って政策を考えられる市民もまた求められます。政治家はもちろんのこと、一般の市民も、自分さえよければいいという政策要求をするだけでは十分ではないのです。

公共政策学部の使命は社会によい政策を発信することですが、それだけではなく、よき市民、よき政治家、よき公務員、よき企業人を育てることも重要な使命です。そうした観点から、現職の行政のトップリーダーがどのようなことを考え、どのように語るのかを学習者が知る意義は大きいと思われます。

講演の内容は、大阪都構想など地方自治体が国から権限委譲を求める動きについて紹介・解説するもので、「弱肉強食と地方自治は反対、一番遠い言葉です」という言葉が印象的でした。

増田先生からは「大阪都が京都に及ぼす影響は?」「関西広域連合と道州制の関係は?」といった、そこが聞きたいという質問が繰り出されました。会の最後は知事から学生への「政治や行政の一面だけを見てはダメ。表と裏をしっかりと見極めて、時代を読んで正しい判断をして下さい」というメッセージで締めくくられました。

マスコミの取材も5社あり、学生の反応も上々でした。

大学に知事を迎えることは教員・職員それぞれに準備等で大変という面もあるのは事実ですが、学生には貴重な学習の機会であり、大学には貴重な宣伝の機会でもありますから、今後も積極的に続けていきたいと思えます。



## ◆ 生命環境科学研究科 公開シンポジウム ◆

## 「京都府北部における地域学術情報の集積と探求拠点～自然系博物館への期待」

公開シンポジウム「京都府北部における地域学術情報の集積と探求拠点～自然系博物館への期待」を、平成23年度地域貢献型特別研究「京都府北部の生物多様性の解明と保全、ならびに地域学術情報の集積と探求拠点の構築に関する研究」(代表:中尾史郎)の成果報告会と併せて、2011年12月17日に舞鶴勤労者福祉会館で開催しました。京都府内の多くの関係機関や団体が後援くださいました。そして、地元の高専学校や生物研究者のご協力による運営で、100名を越える方々が来場くださいました。前半では、京丹後市箱石海岸の海浜植物、宮津市天橋立のハマナス、舞鶴市冠島のオオミズナギドリ、そして京都府北部一円の希少な昆虫類について、それらの分布、生態および遺伝的構造特性を研究した成果を発表して、地域の皆様が野生生物を環境保全や観光資源として管理していく上での着眼点を提供しました。後半には、京都府文化環境部の佐藤芳郎氏に京都府の自然環境保全と生物保護の取組みについて、そして元国立科学博物館動物研究部部長の友国雅章氏（本学農学部農学科1970年卒）に自然系博物館の役割と必要性についてご紹介いただきました。さらに、それらを踏まえ、元舞鶴市小学校理科教育研究会理科部長の阿波伊佐美氏、そして築山崇地域連携センター長らと交え、「地域学の探求拠点としての自然系博物館と大学」をテーマとした議論をご来場の皆様方とともに展開しました。京都府北部の文化・教育と土地利用・景観管理とに、貴重な生物資源の管理という視座から取り組んだ数年間の成果の蓄積やその過程の研究遂行上の困難（地理的・交通的な障壁）の共有によって、自然・歴史的財産の情報の集積体系化や発信、そしてさらなる探求や利活用に研究基地の役割を果たす事の出来る博物館機能の充実が重要なステップであることが認識されました。全国の研究者へ繋がる学術窓口として、そして地域の子どもや親子など多様な市民がアクセスできる、既存の施設を利用した理想の公的地域探求拠点に対する期待が浮き彫りになりました。これを契機として、京都府北部地域と府立大学の不断の交流が一段と大きな実を結ぶことを期待しております。



## トピックス

## ◆生命環境科学部食事学研究室が「大学のまち京都・学生のまち京都推進特別表彰」を受賞

「大学や学生が持つ力を生かした新たな交流の創出や地域の活性化につながる取り組みにより京都のまちの魅力向上に多大な貢献をした」として、京都市から「大学のまち京都・学生のまち京都推進特別表彰」を受賞しました。

## ◆生命環境科学研究科応用生命科学専攻の青井渉助教が「米国スポーツ医学会若手研究者賞」を受賞

運動による疾病予防作用のメカニズム解明などスポーツ医学分野における研究業績や第58回米国スポーツ医学会大会における研究発表内容等が評価され、米国スポーツ医学会 若手研究者賞を受賞されました。

## ◆生命環境科学研究科応用生命科学専攻の高野和文教授の共同研究グループが、市村学術賞の「功績賞」を受賞

共同研究「高精度立体構造解析のためのタンパク質結晶化技術」が、学術分野の進展に多大な貢献があったとして、財団法人新技術開発財団主催の市村学術賞「功績賞」を受賞しました。

## ◆第7回「日本バイオベンチャー大賞」の「フジサンケイビジネスアイ賞」を受賞

生命環境科学研究科応用生命科学専攻の塚本康浩教授が代表を務めるオーストリッチファーマが、優れたバイオベンチャー企業を表彰する第7回「日本バイオベンチャー大賞」（主催：フジサンケイビジネスアイ）の「フジサンケイビジネスアイ賞」を受賞しました。

## ダイガク×チカテツ 駅ナカアートプロジェクト

環境デザイン学科の学生が制作した作品が展示されています。



- 展示期間 平成24年5月15日（火）まで
- 展示場所 地下鉄北大路駅の南北連絡通路（常設展示）
- 主催 京都市交通局「地下鉄開業30周年記念事業」

## 学位取得者一覧

### 課程博士

#### 【文学研究科 国文学中国文学専攻】

- ・ 濱中 祐子 平安後期歌学書の研究 — 『口伝和歌釈抄』を中心に —

#### 【文学研究科 史学専攻】

- ・ 福島 在行 現代日本の平和博物館の現状と諸課題に関する考察 — 平和博物館の課題と歴史教育・歴史学との交点 —
- ・ 中村 修 海民から見た日本古代国家形成過程の研究

#### 【福祉社会学研究科 福祉社会学専攻】

- ・ 上田 光明 犯罪学におけるコントロール理論の近年の展開と日本における少年非行の分析

#### 【公共政策学研究科 福祉社会学専攻】

- ・ 河野 高志 ソーシャルワークにおけるケアマネジメント方法の構築 — 実践研究による方法の理論的検証 —

#### 【生命環境科学研究科 応用生命科学専攻】

- ・ 小川 亜紀 An evaluation of protein intake for metabolic demands and the quality of dietary protein in rats using an indicator amino acid oxidation method  
(ラットにおける指標アミノ酸酸化法によるタンパク質代謝要求量と食事タンパク質の質の評価)
- ・ 田邊 陽一 Structural and functional analysis of endo-1,3-β-glucanase  
(エンド-1,3-β-グルカナーゼの構造機能解析)

#### 【生命環境科学研究科 環境科学専攻】

- ・ 呉 昱瑩 日本統治時代から戦後初期における台湾原住民の「改良蕃屋」に関する研究 — アミ族を事例として
- ・ 山田 隆人 高齢者の居住環境改善に関する研究

### 論文博士

#### 【生命環境科学研究科 応用生命科学専攻】

- ・ 小林 ゆき子 鉄の吸収と生体利用に対する栄養成分の有用性に関する研究
- ・ 本間 誠之 The efficacy of new and launched oral antimicrobials against pathogens of respiratory tract infection  
(呼吸器感染症に対する経口抗菌薬の有効性に関する研究)
- ・ 小嶋 美穂子 農産物中残留農薬の実態と農薬のエストロゲン活性に関する研究

#### 【生命環境科学研究科 環境科学専攻】

- ・ 淵上 佑樹 木質系建材のライフサイクル全体において発生するCO<sub>2</sub>の定量化と各プロセスにおけるCO<sub>2</sub>排出削減対策の評価



## 桜楓講座（春の部）参加者募集



最近のトピックスを交えながら、本学教員がそれぞれの専門分野について分かりやすく解説します。

**Aコース** 5/25(金) 18:15~19:45 講師：文学部准教授 岡本 隆司

「李鴻章—東洋のビスマルクと日本の近代」

**Bコース** 6/8(金) 18:15~19:45 講師：生命環境科学研究科助教 中尾 淳

「放射性セシウムは土壌中でどのようにふるまうのか？」

- 詳しくは企画課までお問い合わせください。

TEL 075-703-5147 / FAX 075-703-5149 / Email kikaku@kpu.ac.jp

府大広報 No.169 —卒業特集号—

京都府立大学広報委員会 2012.3.23 発行

〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町1-5

TEL. 075-703-5904 FAX. 075-703-5149

Email kikaku@kpu.ac.jp